

注腸を併用した。8病日にBUN 99.8mg/dl, Cr 6.21mg/dl, K 6.50mEq/Lで、ソリタ T3を3,000mlに増量し、ラシックス 120mgに増量した。10病日には高カリウム血症は改善した。16病日に高血糖（血糖値 276-390mg/dl）となりインスリン持続点滴を併用した。26病日に黄疸著明（T-Bil 7.72mg/dl, D-Bil 6.53mg/dl, ALP 2,063 IU/L）となり、腹部エコーで胆のう炎と診断し抗生剤を併用した。37病日に腎不全と高血糖は改善しインスリンは中止した。47病日に胆のう炎による炎症反応は改善したので抗生剤を中止し、食事を開始した。発症後4か月に下肢屈曲可、5か月つかまり立ち、6か月にベッドから車いすの移乗可、10か月で歩行可能となった。

横紋筋融解症の原因は不明で、下肢麻痺は横紋筋融解症によるものと考えられるのか。初期対応で重症腎不全や胆のう炎は予防できたのではないかと反省材料の多い症例であったので報告する。

10 災害復旧に取り組む被災自治体職員の身体疲労と精神ストレス

新藤 雅延*・北村 秀明*・**・橘 輝*
本間 寛子***・染矢 俊幸*・**・***

新潟大学大学院医歯学総合研究科
精神医学分野*
新潟大学災害・復興科学研究所
災害医療分野**
新潟県精神保健福祉協会
新潟こころのケアセンター***

【目的】2011年に十日町市では豪雪・地震・豪雨と自然災害が相次ぎ、市職員は復旧復興に向けて過重労働を余儀なくされた。災害対応に取り組む被災自治体職員の労働ストレスについて把握し、職員の健康保持に役立てるため、2011年12月に健康調査を実施した。

【対象】災害からの復旧復興に従事する十日町市職員72名を対象とした。平均年齢は38.1±9.0歳、男女比は60人：12人、平均在職年数は13.7±10.3年であった。

【方法】自己記入式調査票を配布し評価した。

その後、精神科医が一部の対象者を面接した。

【結果】

1) 身体疲労と勤務状況を疲労チェックリストで評価した。疲労の自覚症状が多い群が50%、労働状況が過重な群が63%であった。51%の職員が仕事の負担度が重いと評価された。

2) 精神的健康度をK10/K6で評価した。K10で15以上（精神疾患の疑い）の職員は18%、K6で13以上（精神状態が重篤）の職員は7%であった。

3) 精神的レジリエンスを2次元レジリエンス要因尺度で評価した。職員の総合的レジリエンス得点は、ほぼ正規分布していた。

4) 性格特性を主要5因子性格検査で評価した。平均すると外向性と知的好奇心が低く、協調性がやや高いという特性であった。

5) 時間外労働が月に100時間以上、職責が重い、疲労蓄積が観察される、のいずれかにあてはまる職員32名を面接した。3名を要医療と判断し、2名に就労制限を指導した。

6) 各項目間の相関をみると、疲労の自覚症状は労働の過重状況 ($r = 0.75$)、K10 ($r = 0.79$)と正の相関を、レジリエンスの3要因 ($r = -0.24 \sim -0.25$)、情緒安定性 ($r = -0.45$)と負の相関を示した。レジリエンスは3要因とも、性格特性の5因子と正の相関を示した。

【まとめ】

・災害からの復旧に取り組む十日町市職員72名の身体疲労と精神ストレスを調査した。

・厳しい勤務状況により、半数以上が強い疲労を自覚していた。

・疲労の自覚は個人側の要因である情緒安定性とも相関していた。

II. 特別講演

がん医療における心の問題とその対応

埼玉医科大学国際医療センター
精神腫瘍科

教授 大西 秀樹